

ステキな景色をパシャリ／

#自分だけの

1コマ

市内で見かけるさまざまな景色。一人一人、お気に入りの景観があるはず。鈴鹿市景観計画の改定にあたり募集した「自分だけの1コマ」写真の中から、写真展（3月初旬）に使用した市内の景観写真を紹介します。

※現在は募集していません。



都市計画課公式
Instagram



ひと・まち・モータースポーツ

鈴鹿大生が鈴鹿8耐クラス優勝に輝く

本市出身の脇田^{わきだ}一輝^{かずてる}さん（55歳）は、幼いころからの車への憧れが高じて、レースの世界に飛び込みました。その戦歴は輝かしく、1992年FJ1600チャンピオンを皮切りに、全日本F3選手権、スーパー耐久（クラス2位）、全日本GT選手権（GT300クラス5位）などの活躍を経て、1996年からはアメリカの「NASCAR」^{ナスカー}にもチャレンジ。

帰国後は「K&Gレーシング」を設立し、個人のレーシングカーを整備するレーシングガレージの運営を始めますが、当時の国内レース界は参加者の減少にあえぐ氷河期でした。その苦境を打破すべく、鈴鹿サーキットとレース関連各社で創り上げたレースカテゴリーが、「フォーミュラEnjoy」でした。これに共鳴した田^なさんは、手軽にレースに参加できる車両のレンタルシステムを構築し、貸し出しに加えて、練習やレース時に選手をフルサポートするサービスを始めました。

「フォーミュラEnjoy」をより身近にする画期的なシステムは大きな反響を呼び、約20年に渡り、多くのドライバーがサーキットライフを文字どおりエンジョイしています。



▲所属ドライバーの走りを見守る脇田さん

なかの よしげ

■中野能成（鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局）

キーボード



今回の特集で取り上げた、職業体験をした生徒は高校2年生。体験を通してどう感じたか聞いてみると、「働くことの大変さを感じた」、「将来のことを考えようと思った」という答え。高校2年当時の私を振り返ってみると、部活のことや遊ぶことばかり考えていて、働くことを真剣に考えるようになったのはもっと後だったことを思い出しました。

最初に目指したのは、郵便配達員。赤いバイクに乗って手紙を届けることに魅力を感じたからです。採用試験に挑戦しましたが、見事に撃沈したことは今でも覚えています。その後もいろいろな職種の試験や面接を受けた結果、地元鈴鹿市で働くことに。

今の私は、地元就職だからこそ鈴鹿の良さを深く知り、愛着を持って仕事ができます。これから就職する人にも「ここで良かった」と思える働き先を選んでほしいものです。できれば鈴鹿de…(梓)